

# 歴史に埋もれた巨大山城 木舟城跡散策ガイドマップ

## 木舟城「丸ごと」周遊ルート

入口看板→南城登城口→南城の曲輪→おてんじょう→主郭→虎口→搦手(往復)→虎口→北城の曲輪→城の平→北城登城口→入口看板 (所要時間: 2時間)

市民活動により登城ルートが整備され、トレッキング感覚で山城を楽しんでいただけるようになりました。

## 木舟城 360° VR パノラマ

<https://www.kita-alps.info/kifunejo>

現地の様子をスマホ・タブレット・パソコン等で疑似体験できます。



## 城の平 (じょんてら)

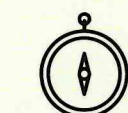
主郭から尾根筋を進むと、城内最大の平坦地が広がっています。面積は1ha以上あり、「城の平(じょうのたいら)」がなまって古くから「じょんてら」と呼ばれてきました。西方の鳥屋沢方面を除いて周囲からは見えない場所で、ゆるやかな階段状に造成してあり、近年まで農地としても使われてきました。

**ご注意**  
木舟城跡にはトイレや水飲場がありません。水や食料をご用意のうえ、自己責任でご登城ください。

## 大町市 木舟城 (南城・北城)

この地図は長野県立歴史館蔵「宮坂武男氏作図(平成10年)の縄張図」に木舟城研究会が登城ルートと注釈を入れさせていただきました。本パンフレットの内容は著作権法により保護されています。権利者の許可なく、複製・転載・ネット投稿などを行うことはできません。

0 50 100 150m



木舟城跡入口  
登城される方  
向けに竹製杖  
を設置して  
います。ご活用  
ください。

越後道(糸魚川街道)  
塩の道

**お願い**

- ①登城ルートは概略です。現場で案内看板を確認してください。
- ②城域は私有地です。マナーを守って登城してください。
- ③遺構を破壊しないでください。
- ④危険生物(クマ・サル・ハチ・ヘビ等)に注意してください。



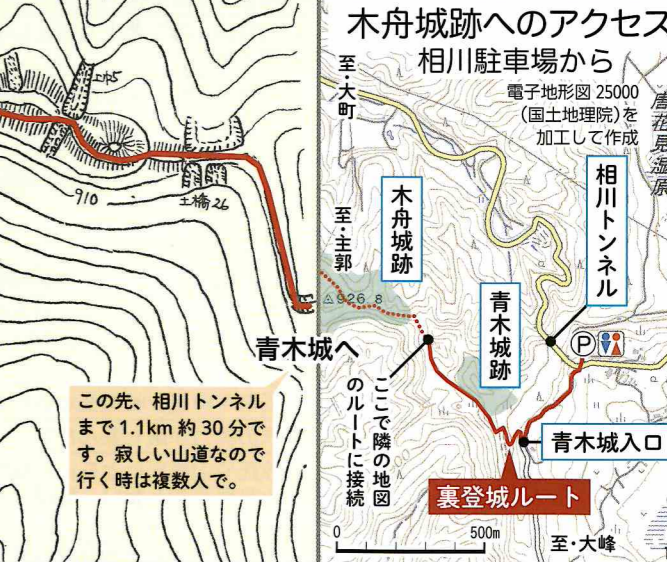
**おてんじょう**  
尾根筋に沿って平坦に削られた曲輪が階段状に続いた先にある一段と高い平坦地は、「おてんじょう」とよばれ、古くは、ここが主郭であったとも考えられます。三方に土塁が設けられており、多くの人を収容できそうな、周囲から全く見えない平坦地があります。

**主郭**  
おてんじょうの東の大きな横堀を過ぎると曲輪が階段状に並んでいます。この曲輪の南の端を登ると四方を急斜面に囲まれ、西側に土塁が残る台地になります。この付近が城の中心となる主郭です。ここは、東から伸びてきた尾根と南の尾根が合流する地点で、城内で最も標高が高く(926m)、城の入口から約200mの高さです。東方に伸びる尾根筋には大きな堀切があり、その先はいくつかの縦堀などを経て、搦手(からめて=城の裏手口)の青木城へと続いています。

# 信濃大町 木舟城跡



信濃では  
まれに見る広大で  
謎多き中世の山城  
登城  
ガイドマップ



木舟城研究会は、長野県大町市社地区にある県内屈指の山城「木舟城」の歴史や遺構の現地調査、仁科氏を含めた学習活動を行い、遺構の保護と登城道整備を進めています。また、木舟城の魅力を県内外に発信し、史跡指定を目指して地域の発展と郷土愛の醸成に取り組む市民団体です。

木舟城  
仁科姫  
信濃大町  
木舟城イメージキャラクター「仁科姫」

発行: 木舟城研究会 事務局  
〒398-0003 長野県大町市社 5876-1  
<https://shinano-omachi-kibune.jp/>  
監修: 大町市教育委員会  
協賛: 大町ロータリークラブ  
表紙空撮写真: 北陽建設株式会社

木舟城研究会  
ホームページ

大町市 HP  
3大町の山城

# 木舟城

出典：余湖くんのお城のページ  
<https://yogokun.my.coocan.jp>



※余湖浩一氏の鳥瞰図をもとに研究会が地名を追加しました。

## 木舟城（南城・北城）とは？

木舟城は、大町市街地の東南に連なる大峰山塊の北端、安曇平を一望できる大町市社の山下地区木舟にあります。この城は、鳥屋沢から「城の平(しょんてら)」と呼ばれる広い平坦地を挟んで、南尾根と北尾根を中心に主として6本の尾根筋で構成されており、地元では古くからそれぞれ「南城」「北城」とよばれてきました。山麓には、現存する鉄製では日本最古とされる安貞2年(1228)在銘の鱧口(国指定重要文化財)が出土した常福寺跡があります。

平安時代から戦国時代末まで大町を中心とした安曇地方に大きな勢力を有していた仁科氏の主要な城郭とされ、西方約1.2kmの館之内集落には、仁科氏の居館がありました。この居館を守るように北方の丑館と古城に館跡が残されており、1.5kmほど南には丹生子城が、さらに南方の独立峰にも出城跡が残り、東方のからめ手は青木城で守られていました。

戦乱時の籠城や逃げ込みを目的として築かれたとみられる大規模な山城で、築城された時期は明らかではありません。

んが、長期間にわたり幾度となく拡張や修復が繰り返されました。仁科氏の居館が現在の天正寺付近に移った後も使用され、天正10年(1582)に、仁科信盛(盛信)が高遠城で織田信長の長男・信忠軍と戦い戦死してからも、小笠原氏により使われたと考えられます。

南東上方の南城の尾根筋には、無数の堀切や堅堀、曲輪群が配置されており、中途の「おてんじょう」と呼ばれる高地を中心に、南西に伸びる有ヶ峰の尾根、宮山の尾根など4本の尾根筋で南城を構成しています。

また、鳥屋沢の北方の尾根にも多くの堅堀や堀切と曲輪が残り、「城の平」から最上部で南城につながり、主郭を構成しています。

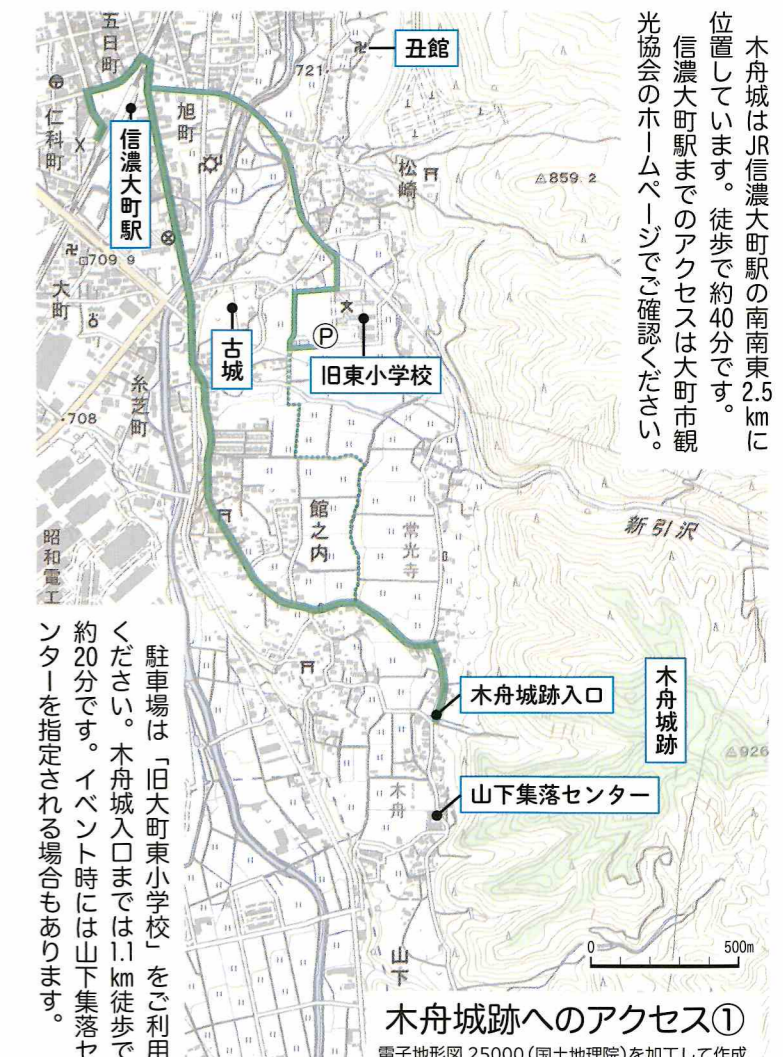
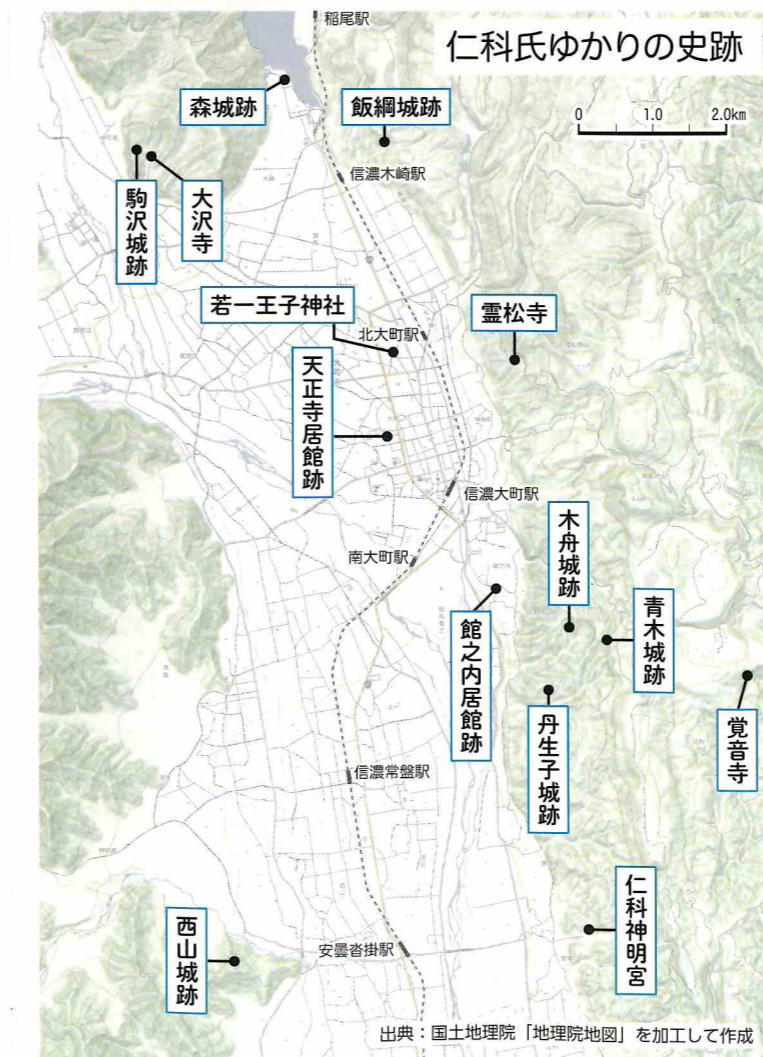
後の時代には、曲輪や平坦地は農地として耕作に使用されたために細部は失われていますが、自然の地形を利用しながら全山を要塞化したまに見る規模の戦国期の山城として貴重な遺構です。

(木舟城研究会)

## 木舟城(南城・北城)に関する主な出来事

年	当主	出来事
11世紀中頃		仁科御厨(にしなみくりや)が設けられる
1179(治承3)	仁科盛家	八坂覚音寺の千手観音像が造られる。
1183(寿永2)	仁科盛家	仁科盛家、平氏を追って木曾義仲と京都に入る。
1221(承久3)	仁科盛遠	承久の乱。仁科盛遠、後鳥羽上皇方として越中で鎌倉幕府軍と戦う。
1313(正和2)	仁科盛綱	仁科盛綱、鎌倉幕府の命により伊那郡路原荘の争いを調査する。
1333(元弘3)		鎌倉幕府が滅びる。
1353(文和2)	仁科右馬助	仁科右馬助の城、小笠原長基の攻撃で落城する。(仁科氏の城に関する初見)
14世紀中頃		この頃、木舟城の原型が築かれたか？
14世紀末頃		仁科氏を中心に信濃の国人、大文字一揆を結ぶ。
1400(応永7)	仁科盛房	大塔合戦。仁科盛房と大文字一揆、村上氏や祢津氏と守護小笠原長秀を大塔(長野市)に破り、都へ追放する。
1437(永享9)	仁科持盛	仁科持盛、従五位下弾正少輔に任ぜられる。
15世紀中頃		この頃、仁科氏の勢力が最も盛んか？
1480(文明12)	仁科盛直	仁科盛直、西牧氏や山家氏とともに中信地方へ進出を図る小笠原長朝と争い、穂高で合戦して敗れる。
1480年代	仁科明盛	仁科明盛の奥方に小笠原長朝の妹を迎え、仁科氏、小笠原氏と和睦して客将扱いとなる。
1543(天文12)	仁科盛能	仁科盛能(道外)の娘、小笠原長時に嫁ぐ。
1548(天文17)	仁科盛能	仁科盛能、小笠原長時と共に塩尻峠へ出陣し、長時と対立して軍勢を引き上げる。長時、武田晴信(信玄)に大敗する。(塩尻峠の戦い)
1550(天文19)	仁科盛能	仁科盛能、武田晴信に出仕する。(武田氏服属)
1551(天文20)	仁科盛能	村上義清の攻撃により丹生子の城、落城する。武田氏の攻撃により平瀬城、落城する。
1552(天文21)	仁科盛能	武田氏の攻撃により有明の小岩嶽城、落城する。(中信地域の大部分、武田氏に服属する。)
1553(天文22)	仁科盛康	第1回川中島合戦
1555(弘治元)	仁科盛康	大日方主税助の奮戦により千見城落城。
1556(弘治2)	仁科盛康	仁科盛康、戦乱のために神明宮の式年遷宮を2か月遅れて8月に行う。
1557(弘治3)		小谷の平倉城、武田氏の攻撃により落城。

年	当主	出来事
1558(永禄元)	仁科盛康	武田信玄、仁科氏に油断しないよう配下の武将に指示する。
1561(永禄4)	仁科盛政	第4回川中島合戦。武田氏と上杉氏の激戦。
1567(永禄10)	仁科盛政	仁科盛政と一族・被官、信玄に忠誠を誓う起請文を提出する。
1569(永禄12)	仁科盛政	この頃、盛政、謀反の疑いで成敗され正統仁科氏、断絶する。
1573(元亀4)		武田信玄、死去する。
1575(天正3)		これより先、武田五郎、仁科氏を継承し盛信と名乗る。 長篠の戦い。武田勝頼、織田・徳川連合軍に大敗する。
1676(天正4)	仁科盛信	仁科盛信、仁科神明宮の式年遷宮を行う。
1578(天正6)	仁科盛信	上杉謙信死去し、後継をめぐる景勝と景虎の争い(御館の乱)始まる。
1579(天正7)	仁科盛信	上杉景勝、景虎を討ち御館の乱が終息する。 仁科盛信と母を同じくする妹お菊、上杉景勝に嫁ぎ、武田氏と上杉氏、同盟する。 仁科盛信の根知城・不動山城の在番始まる。
1580(天正8)	仁科盛信	仁科盛信、安曇郡の武将に出陣を命ずる。
1581(天正9)	仁科盛信	仁科盛信、「信盛」と改名し、高遠城へ入城か？ 武田氏と徳川氏・北条氏との激戦が続く。
1582(天正10)	仁科盛信	木曾義昌、武田勝頼に背き織田信長に通じる。 仁科盛信、高遠城で織田信忠の大軍と戦い戦死して仁科氏滅亡する。 勝頼、天目山で自害して武田氏滅亡する。 木曾義昌に安曇・筑摩・木曾郡が与えられる。 織田信長、明智光秀に討たれる。(本能寺の変) 小笠原貞慶、府中(松本)を回復し、安曇・筑摩郡の領有をめぐる上杉氏と激しく争う。
1584(天正12)		小笠原貞慶、森城(森之要害)の普請を命じる。
1586(天正14)		羽柴秀吉、小笠原貞慶に安曇・筑摩郡領有を安堵する。(小笠原氏と上杉氏の戦い終息) 小笠原貞慶、仁科衆に千見城の普請を命ずる。
1590(天正18)		(天下統一)石川数正に安曇・筑摩両郡が与えられ、小笠原秀政、下総古河へ転封になる。



木舟城はJR信濃大町駅の南南東2.5kmに位置しています。徒歩で約40分です。信濃大町駅までのアクセスは大町市観光協会のホームページでご確認ください。

駐車場は「旧大町東小学校」をご利用ください。木舟城入口までは1.1km徒歩で約20分です。イベント時には山下集落センターを指定される場合があります。